

遠紋地区市町村議員研修会に参加！



性、過去の災害派遣、それから東日本大震災からの教訓という項目で講演されました。

遠軽駐屯地からは、大震災発生の際12日隊員450名、車輛100台の体制で大型船をチャーターして宮古市に入り、瓦礫の撤去、人命救助にあたったそうです。

まず、千年に一度と言われる未曾有の大災害であり、2、3ヶ月という長期の日数になるであろう事と、世界のマスコミの注目になるであろう事を念頭に活動に入ったそうです。心身の準備、遺体の扱い方、地域住民との相互理解、不測の事態への準備等、徹底指導したそうです。

野村連隊長は、全国各地の自衛隊において訓練隊長として相当数の災害訓練の任務にあたってきたが、ここまで大規模な災害発生は初めてであり、当初は茫然自失となり対応方法に悩んだそうです。

対策会議は宮古市・県・警察・消防との間で行われたが、宮古市の山本市長は「勇

気と希望を持って立ち上げれば宮古は必ず復興する」という言葉が救助魂の後押しをしたと言われていたのが印象に残っております。

北海道防災会議地震専門委員会によると、オホーツク海の網走沖と紋別沖にも断層が存在しており、最大震度6強の被害が想定されているが、東日本大震災の教訓から、

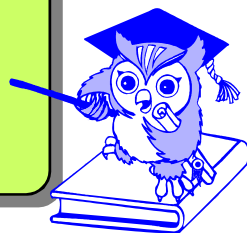
国・道・自治体の連携（普段からの協力体制） 担当者レベルでの意思の疎通 警察・消防との情報収集、協力体制 自治体・町内会等の非常用携帯品の用意、が重要である事を認識することができた研修会でありました。

（議長 吉野正剛 記）



議会だよりに対するご意見・ご感想をお寄せ下さい！

----- 議会事務局宛て ----- TEL 2-1291
Eメール gikai@town.saroma.hokkaido.jp



あとがき

昨年は、いわゆるリーマンショック以降、世界経済の低迷が続く中、日本は「東日本大震災」「原発事故」と想定外とはいえない自然災害の脅威や安全神話が根底から崩れました。そして経済も「超円高」に見舞われ、状況好転の兆しが見られないまま2012年を迎えております。

現政権の民主党に移行してから3年目になりますが、政治、経済ともに迷走が続き、大震災の復興対策もうまく進まず、状況に変化が見られませんが、消費税なども今後どのようなになるのでしょうか。

佐呂間町議会は、議員定数が減り3年目に入りましたが、議会の機能である「政策の最終決定」と「行財政のチェック機能」としての使命が果たせるよう議員一人一人が身を引き締めて努力しております。

町が抱えている課題に行政ではどのように対応しているのか、そして議会はどんなことをしているのかということ、を説明し、わかりやすい議会広報を目指して「顔の見える議員」になるよう頑張っています。

（副議長 加賀屋 修）